

## 市民との意見交換会・報告書（分野別意見交換会）

相手方	： 東山及び芦ノ牧温泉観光協会
開催日時	： 令和3年12月22日（水） 10時00分 ～ 12時00分
開催場所	： 生涯学習総合センター（會津稽古堂）3階 研修室2・3
参加者	： （議会側） 清川雅史議長、樋川誠副議長、小倉孝太郎総務委員会委員長、横山淳文教厚生委員会委員長、 吉田恵三産業経済委員会委員長、成田芳雄建設委員会委員長、戸川稔朗予算決算委員会委員長、 渡部認産業経済委員会副委員長、斎藤基雄産業経済委員会委員、大山享子産業経済委員会委員、 小畑匠産業経済委員会委員、村澤智広報広聴委員会委員長、高橋義人報広聴委員会副委員長 （市民側） 東山温泉観光協会 4名 （会長 齋藤純一氏、副会長 嶋村卓也氏、副会長 平賀茂美氏、事務長 鈴木壽治氏） 芦ノ牧温泉観光協会 3名 （会長 樋口俊典氏、副会長 渡邊幸嗣氏、事務局長 佐藤直氏）
参加人数	： 合計20名（議会側：13名、市民側：7名）
1. 開催の経緯	<p>東山及び芦ノ牧温泉観光協会より、議長へ分野別意見交換会の開催依頼があった。本市の観光振興を図るには、市全体としての観光地経営を考えていくことが重要であり、行政と民間の連携だけではなく、市議会とも定期的な意見交換等の場を設けることにより連携を図り、情報を共有し、本市の観光振興の在り方について政策論議を深めたいという趣旨であった。このため、両温泉街の現状や課題を共有し理解を深め、解決に向けた方策を探るために、会津若松市議会市民との意見交換会実施要領に基づき、両温泉観光協会との分野別意見交換会を開催することとなった。</p> <p>なお、本意見交換会においては、テーマ及び意見交換項目（下記参照）が多岐にわたることから、正副議長のほか、常任委員会委員長及び産業経済委員の出席を求めたものである。</p>

## 2. テーマ及び意見交換項目

### (1) テーマ

「宿泊滞在型観光の強化拡大とまちづくり全体の視点による会津若松市の観光振興の在り方」

### (2) 意見交換項目

[P12]①課題解決のための財源確保及び活用について

[P15]②温泉地環境の改善と整備について

[P19]③観光経済力の強化に向けたDMO（観光地域づくり法人）との連携について

[P22]④その他

## 3. 意見交換で出された主な意見（項目別）

### (1) 課題解決のための財源確保及び活用について

他自治体を参考に、入湯税を見直し、温泉維持や景観整備などに活用できるようにしてもらいたいという意見があった。両温泉観光協会からは、「入湯税は目的税でもあることから、用途を変更するのは難儀であるため、税額を値上げし、値上げ分を環境整備や観光振興へ活用できないか」という具体的な提案もなされた。

### (2) 温泉地環境の改善と整備について

廃屋となった旅館がそのまま残されており、危険な箇所があること。また、土砂災害警戒区域に含まれる箇所があり、避難場所の確保が課題であることなどの意見が出された。

### (3) 観光経済力の強化に向けたDMO（観光地域づくり法人）との連携について

コロナ禍の影響も含め、旅行形態が団体向けから個人向けに移行している中で、会津若松観光ビューローとの更なる連携やDMO専従の人材が必要であるとの意見が出された。

### (4) その他

温泉地域活性化推進事業補助金（震災復興特別事業補助金）の活用については、来年度もコロナ禍は同じ状況になることが想定されることから、さまざまな要因が重なり、せつかくの補助金が活用できない状況が危惧される。そのため、今後3年程度を目途に期間限定で特例の延長を望む意見があった。コロナ禍における業界の環境は日々刻々と変化していることから、迅速かつ臨機応変な対応が必要とされる。

#### 4. 広報広聴委員会総括

この度の意見交換会は両温泉観光協会より開催の話を頂き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着いてからの開催となった。また、意見交換のテーマが多岐にわたることから、市議会としても所管の産業経済委員会だけではなく、各常任委員会委員長及び産業経済委員会委員の出席とし、議会全体として取り組んだところである。

この度いただいた意見は、観光分野をメインとしながらも、入湯税や景観整備、避難場所の確保などまちづくり全体の視点からの観光振興の在り方であり、各分科会で協議・検討し、議会として課題の解決に向け政策研究に取り組んでいく必要がある。

(P4からP10「市民意見の整理及び検討結果」参照)

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第1分科会（総務委員会）

政策分野名	政策分野42 財政基盤
目指す姿	社会の変化に対応した財政運営と、適正な税収の確保により、将来にわたって持続可能で安定的な行財政基盤が構築されたまち
施策名	施策2 税収の確保
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>●課題解決のための財源確保及び活用について</p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <p>政策討論会第1分科会では「まちづくり」についてを重要な政策課題と捉え、議論してきた経緯にある。今回の東山温泉及び芦ノ牧温泉の観光協会との意見交換を通じて、地域づくりの方向性の一部を理解できたが、税金の投入に対しては、まずは地域づくりの全体像及び計画をしっかりと策定することが求められる。</p> <p>令和4年1月に会津若松市温泉地域景観創造ビジョンが策定され、その実現に向けて令和4年度にはアクションプランが作成される予定である。その背景には、空き旅館・ホテルなどを含めた空き家が温泉街としての景観を大きく阻害しているという課題がある。</p> <p>その上で、東山温泉及び芦ノ牧温泉は本市における重要な観光資源であり、本市の経済効果も十分に見込まれることから、更なる温泉地域景観の整備が必要となるため、その財源として適正な税収の確保に向けて検討していく必要がある。本市における入湯税は、昭和52年に150円/人・日となって以来、税額は変更していない。令和2年度は、入湯税による税収は約5,900万円あるが、入湯税は目的税であるため、観光振興に約3,600万円、観光施設の整備に約300万円、環境衛生施設の整備に約2,000万円が充当されているので、入湯税の値上げも既に検討課題として俎上にあがってきている。このような現状を踏まえて、今後も当分科会での議論を深めていきたい。そのために、先ず知見者からのセミナーを企画したい。</p>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう間もなく3年目を迎える新型コロナウイルスの感染拡大の影響は我々の業界において直撃しており、そのダメージは想像以上のものであった。現在、今後においてもこの傷痕は大きく残るものと想像でき、税制や環境問題等が喫緊の課題であると認識している。</li> <li>・各施設の敷地内は整備されているが、公共物に関して整備されていない。使うべきところに入湯税が充当されていない。</li> <li>・源泉管理の課題、景観維持の課題に対して入湯税を活用したい。</li> </ul>	

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第2分科会（文教厚生委員会）

政策分野名	政策分野26 地域防災
目指す姿	高い防災意識と充実した消防・防災体制により、災害被害が少ないまち
施策名	施策1 災害に強いまちづくりの推進
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● 温泉地環境の改善と整備について</p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両温泉地区において、廃屋対策は共通の課題である。 特に東山温泉地域の廃屋は、建物が劣化して倒壊することがあれば、道路をふさぐ危険がある。また、東山温泉地区の多くが土砂災害警戒区域にもなっているため、土砂災害や火災等があった場合に、近場に安全に避難できる場所がないなどの課題もある。廃屋の問題は景観のみならず、災害時に二次的災害を引き起こす可能性もある。避難場所の確保も含め、災害対策は重要な課題であることから、議会としても検討していく必要がある。</li> </ul>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芦ノ牧温泉で廃屋となっている対象施設は5カ所ある。営業を行っている旅館は8軒。廃屋の割合が高い。</li> <li>・東山温泉の廃屋は4カ所ある。後継者がいない小さい旅館が営業をやめると廃屋につながってしまう心配がある。</li> <li>・建物が劣化して倒壊すると道路をふさぐ危険があり、東山温泉のメインの道路が通れない状況になる。</li> <li>・東山温泉は渓谷沿いにあり、ほとんどが土砂災害警戒区域になっている。土砂災害や火災等があった場合、お客さんを逃がす場所がない。</li> </ul>	

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第3分科会（産業経済委員会）①

政策分野名	政策分野15 観光
目指す姿	歴史や文化に誇りを持ち、地域の魅力を楽しみ、伝えながら、おもてなしの心で来訪者を迎えるまち
施策名	施策1 地域資源を活用した観光振興
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● <u>課題解決のための財源確保及び活用について</u></p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化や災害でも被害を受けている各温泉の源泉施設の管理、廃旅館・ホテル等の景観など課題が多い中で、その課題解決のために要する経費が問題となっている。</li> <li>・入湯税は目的税であると同時に市税である。市の判断で税額を増やし温泉地域の活性化の財源として有効活用している先進例もある中で、本市の温泉地の課題解決のために、その在り方を検討する必要がある。</li> </ul>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入湯税は昭和52年に150円/人・日となって以来、税額に変更なし。目的税でもあるので用途が決まっている。</li> <li>・目的税でもあることから、用途を変更するのは難儀と考える。そのため税額を値上げし、値上げ分を環境整備や観光振興へ活用したい。</li> <li>・源泉管理の課題、景観維持の課題が多くある。入湯税を活用したい。</li> </ul>	

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第3分科会（産業経済委員会）②

政策分野名	政策分野15 観光
目指す姿	歴史や文化に誇りを持ち、地域の魅力を楽しみ、伝えながら、おもてなしの心で来訪者を迎えるまち
施策名	施策1 地域資源を活用した観光振興
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● <u>温泉地環境の改善と整備について</u></p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東山温泉、芦ノ牧温泉とも誘客だけでなく、災害対策としても環境整備には力を入れてきているが、廃旅館・ホテルの整備や河川の整備は課題が多く対策に苦慮している。</li> <li>・景観対策と環境整備は、温泉地の魅力向上だけでなく、災害対策としても有効な対策を講じなければならない課題であり、議会としても検討することが必要となっている。</li> </ul>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芦ノ牧温泉で廃屋となっている対象施設は5カ所ある。営業を行っている旅館は8軒。廃屋の割合が高い。</li> <li>・東山温泉の廃屋は4カ所ある。現在営業はしていても後継者がいない旅館もある。後継者がいない小さい旅館が営業をやめると廃屋につながる心配がある。</li> <li>・建物が劣化して倒壊すると道路をふさぐ危険があり、東山温泉のメインの道路が通れない状況になる。東山温泉はほとんどが土砂災害警戒区域であり土砂災害や火災等があった場合お客さんを逃がす場所がない。廃屋を撤去することで避難場所が確保できるのではないか。廃屋は景観の問題だけでなく災害対策との複合的な問題である。</li> <li>・東山温泉を流れる湯川は葎が生え景観が悪い。湯川が整備されればお客さんの印象も良くなる。廃屋はもちろんだが、周りの環境も良くしていかなければならない。</li> </ul>	

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第3分科会（産業経済委員会）③

政策分野名	政策分野15 観光
目指す姿	歴史や文化に誇りを持ち、地域の魅力を楽しみ、伝えながら、おもてなしの心で来訪者を迎えるまち
施策名	施策1 地域資源を活用した観光振興 施策2 誘客宣伝の推進と受入体制の整備 施策3 広域観光・インバウンドの推進
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● <u>観光経済力の強化に向けたDMO（観光地域づくり法人）との連携について</u></p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域DMOとしての（一財）会津若松観光ビューローへの期待は大きく、その役割の明確化と機能の充実は本市の地域観光の振興にとって極めて重要である。</li> <li>・会津の地域観光の課題と今後の方向性を整理し、地域DMOの役割発揮を促していく議論と具体的提案が必要になっていると考える。</li> </ul>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DMOの数少ない成功例の和歌山県田辺市では年間5億円の売上がある。10年以上かけて官民一体となった課題解決を行ってきた。本当の意味での官民一体の取組が必要である。</li> <li>・観光の形態が団体客は壊滅状態でほぼ個人客になっている。個人客が楽しめるコンテンツづくり、質の向上については会津全体で考えていかなければいけない課題。</li> <li>・観光ビューローは課題を認識し解決できるよう専念できる人材がいないと組織は変わらない。財源的にも自立が必要。</li> <li>・滞在をさせることが大事であり、滞在させるためには、宿泊施設だけではなく地域全体で魅力をつくることにより、滞在する動機を付けることがDMOの手段としての役割である。</li> <li>・旅行雑誌の調査によると、会津若松市は滞在時間の短い観光地であり、一度は行ってみたい観光地としてはランキングでは上位だが、滞在したい・もう一度行ってみたいランキングではかなり落ちてしまう。</li> <li>・日帰り、1泊2日の短期間ステイで帰ってしまうことより2倍、3倍になることはデータで示されているので、そういうことを担っていくDMOにしていきたい。</li> <li>・これからはSNSなどで旅行者が出発から帰りまで事細かに発信するので、その地域に素材があればあるほど魅力のある観光地になる要素が大きいと思う。</li> <li>・本市の観光施策は着地型といえども発地型になっている。大きな素材があればあるほど非常に魅力のある観光地と思ってもらえるチャンスでもある。会津に来たなら滞在しないと勿体ないと思ってもらえるようなイメージづくりが重要と考える。</li> <li>・現在は登閣料や売店収入ぐらいしかない。販売までつなげられる観光コンテンツの一元化と窓口の一元化が必要である。</li> </ul>	



## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第3分科会（産業経済委員会）④

政策分野名	政策分野15 観光
目指す姿	歴史や文化に誇りを持ち、地域の魅力を楽しみ、伝えながら、おもてなしの心で来訪者を迎えるまち
施策名	施策1 地域資源を活用した観光振興 施策2 誘客宣伝の推進と受入体制の整備 施策3 広域観光・インバウンドの推進
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● <u>その他（震災復興特別事業補助金）について</u></p> <p><b>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</b></p> <p>温泉地域活性化推進事業補助金（震災復興特別事業補助金）は東山・芦ノ牧両温泉の復興・振興にとって大事な財源となっているが、コロナ禍の中でせっきくの補助金が十分活用できない状況にある。今後の補助や活用の在り方について検討の必要があると考える。</p>	
<p>＜意見内容＞</p> <p>・温泉地域活性化推進事業補助金（震災復興特別事業補助金）の活用については、来年度もコロナ禍は同じ状況になることが想定されることから、さまざまな要因が重なり、せっきくの補助金が活用できない状況が危惧される。そのため、今後3年程度を目途に期間限定で特例的に延長してもらいたい。</p>	

## 分野別意見交換会＜市民意見の整理及び検討結果＞

### 政策討論会第4分科会（建設委員会）

政策分野名	政策分野34 景観
目指す姿	自然景観、歴史的景観、まちなみ景観など、本市の特性を活かした、うるおいと魅力にあふれるまち
施策名	施策1 自然、歴史、市街地の特性を活かした景観形成
<p>＜市民意見の検討：議会として課題とすべき内容＞</p> <p>● <u>景観について</u></p> <p>【現状や問題点、解決のための具体的なポイント】</p> <p>温泉街における廃屋は景観を大きく損ねる要因となっている。東山、芦ノ牧の両温泉街地区は、景観重点地区に指定されており、魅力ある景観を創造する上で大きな課題となっている。廃屋対策は他分野に関わることから、他分科会とも連携し、対策を講じる必要がある。</p>	
<p>＜意見内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源泉管理の課題、景観維持の課題が多くある。入湯税を活用したい。</li> <li>・芦ノ牧温泉では、1カ所の廃屋を取り壊し、新たな観光施設をつくらうと考えていた。春の時点では、費用の半額を自己資金で、残り半額を国の補助金で賄うとしていたが、新型コロナウイルスの影響で、経営が厳しい状況となり金融機関からの融資が困難になった。物を壊し新しい物を作るには資金が必要である。どんなにいいプランであっても資金がなければ終わってしまう。芦ノ牧温泉で廃屋となっている対象施設は5カ所ある。営業を行っている旅館は8軒。廃屋の割合が高い。</li> <li>・東山温泉の廃屋は4カ所ある。また、現在営業はしていても、後継者がいない旅館もある。今後どうしていくか課題である。大きい旅館は、チェーン店が代わりに行うことは可能だが、小さい旅館は難しい。後継者がいない小さい旅館が営業をやめると廃屋につながってしまう心配がある。</li> <li>・東山のトンネルを抜けると廃屋があり、建物が劣化して倒壊すると道路をふさぐ危険があり、東山温泉のメインの道路が通れない状況になる。また、東山温泉は溪谷沿いにあり、ほとんどが土砂災害警戒区域にもなっている。土砂災害や火災等があった場合、都市公園もなくお客さんを逃がす場所がない。都市計画課から指摘も受けているが、なかなか作れない。廃屋を撤去することでスペースができ、避難場所が確保できるのではないかと。廃屋は景観の問題と、崩れることにより避難経路が取れなくなるなど、複合的な問題である。</li> <li>・「スクラップ&amp;ビルドをすれば補助金を出す」というが、スクラップをしてそこで営業をしなさいというのは現在の経済状況では無理である。東山温泉を流れる湯川は葦が生え景観が悪い。景観総合ビジョンの中でその話をした。湯川が整備されればお客さんの印象も良くなる。廃屋はもちろんだが、周りの環境も良くしていかなければならない。</li> </ul>	

## 市民意見の内容

- P12 (1) 課題解決のための財源確保及び活用について
- P15 (2) 温泉地環境の改善と整備について
- P19 (3) 観光経済力の強化に向けた  
DMO(観光地域づくり法人)との連携について
- P22 (4) その他

○ 意見交換項目

→ (1) 課題解決のための財源確保及び活用について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	<p>(主催者挨拶：議長)            この度の意見交換会の開催については、両温泉観光協会より話をいただき、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてからの開催となった。            両温泉観光協会よりいただいた意見交換のテーマが市役所の部局横断的な多岐にわたるテーマであったため、市議会としても、所管の産業経済委員会だけではなく、各常任委員会の委員長の出席を広報広聴委員会で考え、こうした構成での分野別意見交換会を開催する運びとなった。可能であればこうした分野別意見交換会を継続して行えるような話し合いも本日でできればと考えている。</p>			
<p>(東山温泉観光協会会長挨拶)            もう間もなく3年目を迎える新型コロナウイルスの感染拡大、この影響は我々の業界において直撃であり、そのダメージは想像以上のものだった。現在、今後においてもこの傷痕は大きく残るものと想像できる。その中で、本日は観光のみならず、税制、環境問題等々、多岐にわたるテーマとし、忌憚のない意見交換をできれば幸いである。我々も良い道筋ができるような場にしていきたい。</p>				
<p>(芦ノ牧温泉観光協会会長挨拶)            ここ15年ほどの間で世代交代、経営者の顔ぶれが変わってきている。寒々しい環境の中で、会津に来ていただいた方が楽しんで喜んで帰っていただける環境を作り上げていかなければならないと日々感じている。</p>				

○ 意見交換項目

→ (1) 課題解決のための財源確保及び活用について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	(進行) それでは、大きなテーマである「宿泊滞在型観光の強化拡大とまちづくり全体の視点による会津若松市の観光振興の在り方」について、意見項目(1)～(4)ごとに詳しく伺っていきたい。 まず、(1)課題解決のための財源確保及び活用について伺う。			
入湯税は昭和52年に150円/人・日となって以来、税額に変更なし。目的税でもあるので用途が決まっている。消防設備等の整備に活用されているが、本来の環境整備や観光振興に活用されていない。 目的税でもあることから、用途を変更するのは難儀と考える。そのため税額を値上げし、値上げ分を環境整備や観光振興へ活用したい。		○	②	
源泉管理の課題、景観維持の課題が多くある。入湯税を活用したい。		○	②	
今後のビジョンまでは立案できるが、いざ実行となると前へ進まず頓挫してしまう。		○	②	
入湯税について新しい取組の先進地は、北海道阿寒湖温泉、桑名市、下呂温泉などが挙げられる。		○	②	
敷地内は整備できているが、公共物に関して整備されていない。使うべきところに入湯税が充当されていない。もったいない。		○	②	

○ 意見交換項目

→ (1) 課題解決のための財源確保及び活用について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	入湯税の6割が観光振興、4割が衛生環境整備に活用されている。			
	平成21年5月より1,000円以下の利用料には入湯税がかからなくなったがその影響はあるか。			
現状日帰り入浴は、人数的にも縮小しており、経営においても入湯税の収入についても影響はないと認識している。		○	②	

○ 意見交換項目

→ (2) 温泉地環境の改善と整備について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	(進行) 次に、(2)温泉地環境の改善と整備について伺う。			
芦ノ牧温泉では、1カ所の廃屋を取り壊し、新たな観光施設をつくろうと考えていた。春の時点では、費用の半額を自己資金で、残り半額を国の補助金で賄うとしていたが、新型コロナウイルスの影響で、経営が厳しい状況となり金融機関からの融資が困難になった。物を壊し新しい物を作るには資金が必要である。どんなにいいプランであっても資金がなければ終わってしまう。芦ノ牧温泉で廃屋となっている対象施設は5カ所ある。営業を行っている旅館は8軒。廃屋の割合が高い。		○	②	
東山温泉の廃屋は4カ所ある。また、現在営業はしていても、後継者がいない旅館もある。今後どうしていくか課題である。大きい旅館は、チェーン店が代わりに行うことは可能だが、小さい旅館は難しい。後継者がいない小さい旅館が営業をやめると廃屋につながってしまう心配がある。		○	②	

○ 意見交換項目

→ (2) 温泉地環境の改善と整備について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>東山のトンネルを抜けると廃屋があり、建物が劣化して倒壊すると道路をふさぐ危険があり、東山温泉のメインの道路が通れない状況になる。</p> <p>また、東山温泉は溪谷沿いにあり、ほとんどが土砂災害警戒区域にもなっている。土砂災害や火災等があった場合、都市公園もなくお客さんを逃がす場所がない。都市計画課から指摘も受けているが、なかなか作れない。廃屋を撤去することでスペースができ、避難場所が確保できるのではないかな。廃屋は景観の問題と、崩れることにより避難経路が取れなくなるなど、複合的な問題である。</p>		○	②	
<p>芦ノ牧温泉には開発組合があり、温泉を供給する会社だが、ホテルが廃業になれば収入が無くなる。現在でもランニングコストがかかり運営はギリギリで厳しい。やめた方がいいのではないかと状況である。</p>		○	②	
<p>「スクラップ&amp;ビルドをすれば補助金を出す」というが、スクラップをしてそこで営業をなささいというのは現在の経済状況では無理である。</p> <p>東山温泉を流れる湯川は葦が生え景観が悪い。景観総合ビジョンの中でその話をした。湯川が整備されればお客さんの印象も良くなる。廃屋はもちろんだが、周りの環境も良くしていかなければならない。</p>		○	②	



○ 意見交換項目

→ (2) 温泉地環境の改善と整備について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
戦時中からの伝統がある東山盆踊りの開催経費は最低でも700万円くらいかかる。年々寄付金が減少し、不足分は東山温泉観光協会が補填している。東山盆踊りを維持していきたいが開催自体が大変である。まつり協会の秋まつりと東山盆踊りを融合できないか。開催時期や資金等良い案があればアドバイスいただきたい。		○	②	
	東山地区では、土砂災害警戒区域になっているところが多い中で、避難の時間がある場合は少し離れた一中、二中、一箕ふれあい体育館等への避難も考えられるが、なかなか市の方にも妙案はない。東山温泉の宿泊客の安全については、県や市とどのような協議が行われているのか。			
県や市との協議は行われていない。令和元年の東日本台風時、東山地区に避難指示が出されたが、お客さんを連れて避難所に行くことの方が危険だと判断し、鉄筋コンクリートでできている原瀧にとどまった。地域の方にも、原瀧に避難してもらった。芦名に食事を提供していただいた。		○	②	
44年前、東山で火災があったが、いま市から駐車場にお貸しいただいている避難できるスペースがあったため、避難や消火活動がスムーズにいった。もしそのようなスペースがなかったら大惨事になっていたかもしれない。そのようなスペースは大事だと考える。		○	②	

○ 意見交換項目

→ (2) 温泉地環境の改善と整備について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	芦ノ牧温泉でもハザードマップを見ると土砂災害や水害の警戒区域もある。避難スペースではどのような取組がされているか。			
芦ノ牧温泉では、宿泊者の対する避難に関する取組は行っていない。温泉街では土砂災害警戒区域はないので、宿泊施設にとどまっていたくよう考えている。		○	②	
	芦ノ牧の4カ所の源泉施設のことでは、かつての台風19号（令和元年東日本台風）の水害で考えられないところまで大川の水が上がって源泉施設の電源が止まり、ホテル・旅館に温泉を送れない事態があった。ここに市が資金を出して源泉施設を直すことを言ったが、市は“有限会社だから、民間だから出せない”と。民間だから何もできないではなく、もっと高いところに移設できるように、などの対策を考えなければならないのではないか。			

○ 意見交換項目

→ (3) 観光経済力の強化に向けた  
DMO（観光地域づくり法人）との連携について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	(進行) 次に、(3)観光経済力の強化に向けたDMO（観光地域づくり法人）との連携について、伺う。			
DMOの数少ない成功例の和歌山県田辺市では年間5億円の売上がある。熊野古道のコンテンツがあるので世界中から人が来る。簡単に成功したわけではなく10年以上かけて、官民一体となった課題解決を行い、DMOの形を作ってきた。本当の意味での官民一体の取組が必要である。		○	②	
観光の形態が急激に変わりつつあり、団体客は壊滅状態では個人客になっている。この傾向は、ある程度続いていく、完璧に戻ることはない。団体旅行が減っていくことは想定はされていたが、急激に進んでいる。 会津の観光施設は団体旅行をメインとした観光が主流になっている。これをまず個人客に切り替えた観光戦略に変えていかないと、会津の観光はますますじり貧になっていってしまうと不安を覚えている。個人客が楽しめるコンテンツづくり、質の向上については会津全体で考えていかなければいけない課題である。その中で自走していかなければいけない。観光ビューローの理事をしているが本業があるので、それだけに専念できる状況ではない。会社の立て直しを行う中で、課題を認識し、解決できるよう専念できる人材がいないと組織は変わらない。財源的にも自立できる組織を目指している。		○	②	

○ 意見交換項目

→ (3) 観光経済力の強化に向けた  
DMO（観光地域づくり法人）との連携について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>DMOは観光地経営といわれているが、外部からいかにお金を地域に落とさせるか、地域が観光によって豊かになれるかということがDMOの最大の目標である。滞在をさせることが大事であり、滞在させるためには、宿泊施設だけではできない。地域全体で魅力をつくることにより、滞在する動機を付けることがDMOの手段としての役割である。</p> <p>じゃらんの調査によると、会津若松市は滞在時間の短い観光地であり、一度は行ってみたい観光地としてはランキングでは上位だが、滞在したい・もう一度行ってみたいランキングではかなり落ちてしまう。これまで団体型の観光資源をつくってきたため、個人にアピールする部分が欠けている。</p> <p>15時に会津入りしたお客さんが17時ごろに旅館入りし、翌日11時ぐらいまでは市内観光をするが、お昼は違うエリアで済ますという傾向がある。宿泊したお客さんに少なくとも14時ぐらいまで滞在していただくための魅力づくりを地域全体で考えていかなければいけない。それができれば経済波及効果がものすごく上がる。日帰り、1泊2日の短期間ステイで帰ってしまうことより2倍、3倍になることはデータで示されているので、そういうことを担っていくDMOにしていきたい。</p>		○	②	

○ 意見交換項目

→ (3) 観光経済力の強化に向けた  
DMO（観光地域づくり法人）との連携について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>1泊の旅行は5万5千円と言われている。経済効果はその2倍であり、観光客の数を見れば5、600億円ほどになると考える。そのくらい経済波及効果が大きいということを把握し、さまざまな業種を潤しているの事を理解してもらった上で、観光の捉え方が必要ではないか。</p> <p>これまでは恵まれている素材が多ければ多いほど、その地域のイメージが損なわれるきらいがあった。素材が少ないところほど逆にないから絞ることで地域のイメージが強くなり、団体旅行の集客力が強かった。これからはSNSなどで旅行者が出発から帰りまで事細かに発信するので、その地域に素材があればあるほど魅力のある観光地になる要素が大きいと思う。</p> <p>本市の観光施策は着地型といえども発地型になっている。大きな素材があればあるほど非常に魅力のある観光地と思ってもらえるチャンスでもある。会津に来たなら滞在しないと勿体ないと思ってもらえるようなイメージづくりが重要と考える。</p>		○	②	
<p>ビューローの持っている商品で売れるものが限られている。自走するためには売れるものをつくっていかなければいけない。現在は登閣料や売店収入ぐらいしかない。お金をかけてホームページなど素晴らしいものもあるが、販売につながっていない。販売までつなげられる観光コンテンツの一元化と窓口の一元化が必要である。それについて取り組んでいる。</p>		○	②	

○ 意見交換項目

→ (4) その他

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	(進行) その他または全体を通して、ご意見等があれば伺う。			
温泉地域活性化推進事業補助金（震災復興特別事業補助金）の活用については、来年度もコロナ禍は同じ状況になることが想定されることから、さまざまな要因が重なり、せっかくの補助金が活用できない状況が危惧される。そのため、今後3年程度を目途に期間限定で特例的に延長してもらいたい。				
	(総括：議長) 本日は限られた時間の中で、入湯税の財源の問題から、会津観光の在り方、環境整備、防災、そしてビューローの機能をどうしていくか、DMOをうまく使っていくためにはどうするか、補助金・助成金の有効な使い方等々、多岐にわたりご意見ありがとうございました。 今回いただいた意見は広報広聴委員会でまとめ、政策課題としてあげられるものは各分会（委員会）に振るようになる。本日の意見をまとめ、さらには各分科会（委員会）で検討することだけではなく、また新たな検討課題があれば、再度意見交換会を開かせていただければと思う。			